

□の中に漢字を書きましょう。(六年) 名前

1 かわ げんりゅう
□の□
をたどる。

2 なつ おわ ころ ばんか
□の□の□を□
という。

3 おおも
□
りのラーメンを□
する。

4 こどもべや かた
□
を□
づける。

5 きず いた わす ねっちゅう
□の□
みを□
れゲームに□
する。

6 りょこう よくじつ あたた
□の□
から□
かくなる。

7 ちち けいさつしょ きんむ
□は□
に□
している。

8 こども かわあそ あぶ
□の□
びは□
ない。

9 せすじ の ただ しせい つくえ む
□を□
ばし□
しい□
で□
に□
かう。

17	16	15	14	13	12	11	10
こども の かわあそ びは あぶ ない。	じぶん の てお ちを みと める。	しょうらい の うちゅうりょうこう について はな し あ う。	ぎゅうにゅう を の んで はら をこわし、 ふくつう の くすり を の む。	べんがく は しや を ひろ げ、 ひと を ゆた かにする。	た。 かいだん を のぼ ると おだわらじょう の てんしゅかく が み え	かくはん で ぎだい を ぶんたん して とうろんかい を ひら く。	ほんとう かどうか うたが って はんだん に まよ うこと。 はんしんはんぎ という よじじゅくご は、

25

げんぱつ
 の
 さんび
 を
 と
 うテレビ
 とうろんかい
 を
 み
 る。

24

そういくふう
 をこらした
 さくひん
 を
 てんじ
 する。

23

ふじさん
 の
 さんちよう
 に
 ゆき
 を
 いただ
 く
 きせつ
 になる。

22

しゅうきよう
 にはたくさんの
 しゅうは
 がある。

21

ぞんぶん
 に
 かつやく
 して
 ほんざいかん
 を
 しめ
 した。

20

きようり
 から
 たくはいびん
 が
 とど
 く。

19

こんらん
 した
 じたい
 を
 しゅうしゅう
 する。

18

いっぽう
 が
 よ
 びかけ、
 たほう
 がそれにこたえることを、
 おこう
 という。

34

ししゃごにゅう
は
よん
いか
の
かず
は
き
り
す
てる。

33

せんぎょうのうか
は
のうぎょう
だけで
せいけい
をたてる。

32

め
に
うつ
る
ふうけい
が
うつく
しい。

31

してつ
に
そ
って
まち
が
はってん
した。

30

すじみち
を
とお
して
はな
す。

29

ゆき
を
く
じよせつさぎょう
は
ゆきぐに
の
にっか
だ。

28

むず
しい
もんだい
に
と
り
く
む。

27

せいかく
のさっぱりした
ひと
を
「
たけ
を
わ
ったよう」という。

26

じしん ひがい
の
たいさく
を
こう
じる。

35
う。
ちい
さなことを
おお
げさに
い
うことを
しんしょうぼうだい
とい

36
りょっかうんどう
すいしん
を
する。

37
ちよめい
さつか
の
こうえん
を
き
く。

38
さんせいけん
とは
せいじ
に
さんか
する
けんり
のこと。

39
かんたん
ゆうしよく
な
をとり、
まち
に
かけた。

40
ひきよう
たんけん
を
するツアーに
さんか
する。

41
しょくじ
けんこう
と
は、
みっせつ
に
かんけい
している。

42
うら
み
を
おもて
を
み
せて
ち
るもみじ」は

良寛りようかんの
まつご
の
いっく
である。

43 き
り
かぶ
から
わか
い
め
が
で
てきた。

44 えどじょう
は太田道灌おおたどうかんが
きず
いた
しろ
だ。

45 たんじょうび
の
いわ
いに
にさつ
の
ほん
をいただいた。

46 ちゅうごくほうもんだん
の
いちいん
として
ぺきん
を
たず
ねる。

47 はは
は
ききんぞく
を
きんこ
に
ほかん
している。

48 はいく
には
きご
をよみこむという
やくそく
がある。

49 ひげき
の
しゅじんこう
を
げきじょう
で
えん
ずる。

50 オアシスとは、
じゅもく
さばく
なか
みず
の
で
がわき、
がしげる
ところ
です。

59

じまくつ

きの

ようが

を

かんしょう

する。

58

おおぜい

の

ひと

の

はいご

から

だいどうげい

を

み

る。

57

たいよう

が

ゆうぐ

れの

そら

を

あか

く

そ

める。

56

しゃくはち

の

えんそう

に

き

き

い

る。

55

はは

を

かんびよう

し、

すこ

しばかり

おやこうこう

をする。

54

ゆび

の

ほね

を

お

り

せつこついん

に

かよ

う。

53

そんけい

の

いみ

は

ひと

を

とうと

うやま

うことである。

52

ひんこん

や

びようき

で

くる

しみ

こま

っている

ひとびと

が

いる。

51

はし

る

ばじよう

から

まと

を

い

るものです。

「流鏑馬」は

じんじゃ

に

ほうのう

する

ぎようじ

の

ひと

つで、

- 68 こと
な っ た こくご
 を はな ひと の つうやく
を する。
- 67 うし の ちち
か ら い ろ ろ な に ゆ う せ い ひ ん を つく
る。
- 66 アジを ひら き、 ほ して ひもの を つく
る。
- 65 せんれい を う け、 せいしよ を よ
む。
- 64 せんめんじょ の まど を あ けて、 かお を あら
う。
- 63 じょうはつ と きはつ のちがいについて しら
べる。
- 62 かながわけん の けんちょう の ちょうしゃ は かんない
にある。
- 61 ようじん を けいご する しふくけいかん のことをSPという。
エスビー
- 60 けがに そな えて、 しょうがいほけん に かにゆう
する。

69 いずみ かわ から おんせん がわき だ していることもある。

70 にちべいしゅのうかいだん きじ の を しゅうかんし で お。

71 いちよう なみき ある てい なら ぶ。 を きバス に

72 いちよう はい ぞうき といわれる。 や など は

73 ちち いさん そうぞく し、 いひん を せいり を する。 の を

74 さんちよう てんぼう たの しむ。 からの を

75 びじゅつかん ちょうこく み かんどう を おね きざ お。 の を た を に

76 あつ ひ はたくさん すいぶん ほきゅう ひつよう がある。 い は

77 にほん こくけんぽう こうふ じゅうねんご された かに した。 は に

にほん こくれん かめい した。 は に

87

の

の

が

まる。

ぜんい

きふ

あつ

86

の

が

がり、

が

がりした。

えん

かち

あ

ゆにゆうひん

ねさ

85

が

を

する。

たいふう

にほんれっとう

じゅうだん

84

と

なる

を

といった。

にほんじん

こと

がいこくじん

いじん

83

な

りに

き

する。

たんじゆん

あやま

きづ

ていせい

82

の

に

わる。

ちいきじゅうみん

いしきちょうさ

くわ

81

イベントに

って

しょう。

ふる

さんか

80

が

に

する。

せんきょうし

ふきょう

どりよく

79

の

で

に

る。

ばんぜん

そうび

ふゆやま

のぼ

78

を

の

に

した

。

じつぶつ

ひやくぶん

いち

しゆくしょう

もけい

96	95	94	93	92	91	90	89	88
に くことが になってきた。	には の があり、 を める。	の で り ける。	の え でかたよりがある。	な の に する	の は のことを いやる である。	は を って を している。	な がらに を つ。	に き れにくいものであるという である。
こくみん うちゅうりょこう い げんじつてき	のうぜい ぎむ ぜいきん おさ	りんきおうへん たいおう き ぬ	じこちゅうしん かんが かた	ゆうめい ぎんこう けいれつがいしゃ しゅうしょく	じんあい こころ あいて おも こころ	ようさんか かいこ か きぬ せいさん	せいじつ ひと こうかん も	すなお 「 、 」 に さか らう」(孔子) とは、 いみ は ちゅうげん みみ さか ちゅうこく

105

こうちや
に
かくざとう
を
い
れる。

104

さきゆう
で
すなあそ
びをする。

103

ちやくしよくりよう
の
は
べにばな
からとる。

102

こうしこんどう
をしてはいけません。

101

ゆめ
は
ひこうき
の
そうじゅうし
になることだ。

100

ゆうらんせん
で
しま
めぐりをする。

99

かれの
いけん
は
きじょう
の
くうろん
に
す
ぎない。

98

ごうかくつうち
を
ゆうそう
する。

97

けいろう
の
ひ
は、
ろうじん
を
うやま
い長寿ちやうじゆを
いわ
う
ひ
である。

114	113	112	111	110	109	108	107	106
の を する。 ともだち さくぶん ひひょう	に いを めて を く。 たなばた ねが こ たんぎく か	な で し い。 おんだん きこう くら やす	ゴール でころんで した。 すんぜん はいぼく	な がたくさんいるので した。 ゆうしゅう せんしゅ ゆうしょう	き えた を で す。 か まちが じ ぼうせん け	いろいろな の を る。 しゅくしゃく ちず つく	とは から に ちた の 。 こうりょう たいき ちひょう お みず りょう	の さを するのに、 だんけつりよく つよ ひょうげん
							のようだ」という。 いちまいいわ	

123	122	121	120	119	118	117	116	115
たいちようふりよう で しよくよく がない。	あめ で たの しみにしていた うんどうかい が えんき になる。	ぶつぜん に はな を そな える。	こくもつ が ゆた かに みの る ようす を五穀豊穰こくほうじょうという。	はげ しく あめ が ふ る。	こくほう の ぶつぞう を み に い く。	シリーズ ぜんかん を よ み お える。	その へや は らんぎつ あし で のふみ ば もなかった。	へいかんび で としょかん の もん は と じられていた。

132

ねんきんせいど
の
かいかく
が
すす
まない。

131

わたし
の
あね
は
ようさい
が
とくい
だ。

130

こっかい
で
よとう
と
やとう
の
とうしゅとうろん
をする。

129

なつやす
みでも
きそくただ
しい
せいかつ
をする。

128

ジョギングで
こうきよ
のまわりを
いっしゅう
する。

127

さいきん
は
こうそう
マンションが
おお
くなった。

126

ふね
のコンパスは
じぎ
を
りよう
したものである。

125

まち
の
こうしゅうでんわ
が
すく
なくなった。

124

しょく
を
れきほう
する。

141

きぬいと
 は かいこ
 のまゆから つく
 る。

140

ようじ
 を す
 ませて、
 なんみんきゆうさい
 の こうえん
 を き
 く。

139

われ
 を わす
 れて ねちゆう
 する。

138

きわ
 めるのは しなん
 の わざ
 だ。
 いたところ なんしよ
 に があり、
 さんちよう
 を

137

アルバイトに こうがく
 な ちんぎん
 を はら
 う。

136

げんかく
 な ちち きび
 に しく きよういく
 された。

135

つ
 りの あなば
 を おそ
 わる。

134

「
 そっせんすい
 範^{はん}とは みずか
 ら てほん
 になる こうどう
 をすること。

133

くろしお
 は にほんれっとう
 に そ
 って なが
 れる だんりゆう
 だ。

150

おおごえ
 で す
 きな し
 を ろうどく
 する。

149

しゅうしょくかつどう
 で きぼう
 の かいしゃ
 を ほうもん
 する。

148

ぼうめいさき
 の くに
 での しぼう
 が ほうこく
 された。

147

がっこう
 の しせつ
 を かくちよう
 する。

146

ビル けんせつ
 にはたくさんの
 が てっこう
 が しょう
 される。

145

きぬいと
 は かいこ
 のまゆから せいぞう
 する。

144

しやくしょ
 の まどぐち
 を たず
 ねる。

143

おさな
 い おとうと
 が こわ
 がらずに ようちゅう
 を て
 でつかむ。

142

たんけんたい
 に くわ
 わり たからもの
 を さが
 す。

159

まいあさ
のラジオ
たいそう
で
けんこう
を
たも
つ。

158

バイオリンを
どくそう
する。

157

くるま
が
こしょう
して、
しごと
に
ししょう
が
で
る。

156

はいいろ
の
そらもよう
なので
きも
ちが
くら
くなる。

155

まつ
の
き
り
かぶ
に
こし
をかけて
やす
む。

154

いろいろ
でかわいらしい
かおだ
ちを「
たまご
に
めはな
」という。

153

てきぱきと
しごと
を
しより
する。

152

ほうもつでん
を
はいかん
する。

151

スイカを
れいぞうこ
で
ひ
やす。

162

ゆめ

を

じょうじゅ

するために、

こうてつ

のハートが

ひつよう

だ。

161

ようちえん

で

なら

った

うた

を

どくしょう

する。

160

げきどう

の

じんせい

を

いっさつ

の

ほん

に

あらわ

す。